

新潟市歴史資料だより

平成19年 3月31日

第4号

歴史文化課に歴史資料整備室を設置

政令指定都市移行に伴い、4月1日から組織が改正され、歴史文化課は文化スポーツ部の課になります。また、歴史資料係は歴史資料整備室に拡充されます。室の業務には、平成に合併した14市町村の歴史的公文書の整理や、文書館の開設準備が加わります。

合併14市町村及び新潟市の公文書のうち、各課が日常業務に使用しない長期保存文書等は、味方・小須戸・岩室・横越・月潟・潟東の各出張所に設けられた公文書分類センターに集約される予定で、これまでに文書保存箱約6,000箱が移動しています。

その分類整理業務は、歴史文化課が担当します。平成19年度は、味方並びに横越公文書分類センター収納文書の文書整理・目録作成を行います。

歴史文化課は白山浦庁舎に移転

歴史文化課は、昨年12月4日に、第二分館4階から白山浦庁舎（旧北陸地方整備局跡地）1号棟の1階（下記図）に移転しました。郵送物の住所、代表電話番号は変更ありませんが、直通電話番号が025-226-2583～4、FAX番号が025-230-0412に変わりました。

資料の閲覧は、白山浦庁舎で行っていますが、旧地籍図は横越公文書分類センターに移動します。



平成18年度事業概要

■資料の公開

複製資料や図面・写真などの資料を利用いただきました。今年度の一般利用件数は、次のとおりです。

	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	13	3	10	1	5	32
複写	57	14	72	1	33	177
掲載	6	0	2	1	62	71
計	76	17	84	3	100	280

■資料の保存

①資料の整理

昨年度着手した故渡辺秀英氏収集図書・文書の仮整理を終了しました。点数は約12,000点です。また、小須戸・阿部倉一氏寄贈文書を整理しました。

②複製本の作成

今年度は下記の複製本を作成しました。B5判、1冊約90ページです。

- 水沢新田 富所家・佐藤家文書（江戸～昭和期、市指定文化財）：81冊
- 鳥屋野区有文書（江戸～昭和期）：92冊
- 新崎区有文書（江戸～昭和期）：75冊
- 北場会所文書（江戸～昭和期）：51冊
- 板井会所文書（明治～昭和期）：129冊
- 沼垂町宅地図面（明治8～9年）：11冊
- 鳥原 笠原家文書（江戸～昭和期）：271冊
- 向陽 田中家文書（江戸～昭和期）：296冊
- 学校町通 土屋家文書（江戸～昭和期）：42冊

■資料の調査収集

①資料所在調査

個人所蔵や区有の資料について、小須戸地区・岩室地区で計45か所の所在確認調査を行いました。所蔵者及び関係の方々のご協力をいただき、検地帳や用排水関係資料等、近世から現代の豊富な資料の所在と現状を把握することができました。中には、今回初めて拝見した資料もありました。今後も地区ごとに調査を継続します。

②歴史的公文書の引き継ぎ

保存期間を過ぎた市の廃棄予定の公文書の中から、歴史的な文書を選定し、引き継いでいます。今年度は1,167点を引き継ぎましたが、そのうち785点が平成の合併市域の支所文書でした。

■新・新潟歴史双書2『新潟市の遺跡』の刊行

平成合併後の新・新潟歴史双書の2冊目として、『新潟市の遺跡』を刊行しました。市域には、丘陵や台地上の縄文遺跡、日本海側最北の前方後円墳、海浜に営まれた古代の製塩遺跡、平野のまったく中で営まれた中世の村跡など、様々な遺跡があります。

本書では、これまで市域で発見されている約700遺跡の中から、史跡に指定されている遺跡を中心に、原始から中世までの69遺跡を紹介しています。四六判、約160ページ、オールカラーです。章は、新津丘陵周辺の遺跡、弥彦・角田山周辺の遺跡、平野の遺跡の3章です。

市歴史博物館と市内の一部書店で、1冊1,100円（消費税を含む）で4月下旬から販売します。

■歴史パンフレット「新潟市のあゆみ～港と田園に育まれた都市～」の発行

政令市新潟市の歴史を、市内外の方々に知っていただくため、写真・図を多く掲載しています。市域を概観する歴史地図を付しています。A4判、8ページ。新潟市のホームページにも掲載しています。

■講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

平成18年10月2日・16日・30日、11月6日の4日間、1日各2講座を実施しました。参加者39名。

(講座内容・講師)

- ①「威奈真人大村の墓誌」を読む(桑原正史 加茂市史編集委員)
- ②蒲原郡符木簡を読む(相沢央 歴史文化課)
- ③東北大学付属図書館蔵「越後国往古絵図」から新潟の歴史意識を読み解く(堀健彦 新潟大学人文学部助教授)
- ④写真で見る新潟地震(藤塚明 歴史文化課)
- ⑤絵図と史料で読む在郷町葛塚(杉本耕一 新潟県立文書館)
- ⑥新潟市域にかかわった近世大地主資料を読む(遠藤義典

歴史文化課) ⑦近代資料を読む～栗ノ木川分水路 請願書・起工稟請綴(三村哲司 新潟市亀田郷土資料館長) ⑧小須戸山通り地域の近代石油資料を読む(斎藤寿一郎 歴史文化課)

受贈資料

下記の文書・図書・刊行物等、多くの資料を寄贈いただきました。(敬称略)

- ・斎藤秀平氏収集古文書・図書ほか
…新潟市 真水 正子
- ・戦時下の中国大連市内の日本映画館チラシほか
…新潟市 上原 正吾
- ・白山神社祭礼古文書、近代貨幣
…新潟市 鷺津 勝得
- ・小須戸地区関係近代資料
…新潟市 阿部 倉一
- ・昭和10年新潟市地図
…豊田市 高橋稔之介
- ・大正9年新潟市地図
…新潟市 枝並 保

歴史文化施設紹介 一新津鉄道資料館一

新津は、「鉄道の町」として栄えた町です。新津駅は、北越鉄道の駅として明治30(1897)年に開業しました。その後、信越本線・羽越本線・磐越西線が接続する鉄道の要衝となり、機関区など現場事務所も多数設置されました。鉄道は、新津油田の開発とともに新津の発展に大きな役割を果たしました。

新津鉄道資料館は、鉄道の町にふさわしい資料館として、昭和58(1983)年に開館しました。平成10年には、新津地域学園(旧新津鉄道学園)内の現在地に移転し、リニューアルオープンしました。豊富な資料をもとに、鉄道の歴史や鉄道に関するあらゆる分野を網羅した資料館です。

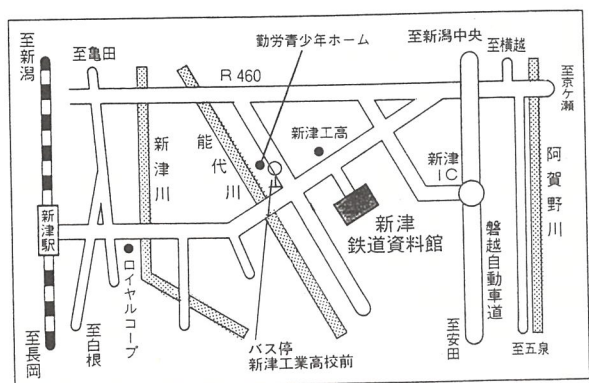
館内は、「時刻表と記念乗車券」「鉄道のあゆみと銘板」「車輪とレール」「電車・気動車・制御機器」「連結器・制動機」「なつかしの赤谷線」「保線車」など、21の展示コーナーが設けられています。鉄道友の会コーナーでは、鉄道ファンの方々の貴重なコレクションや、なつかしい昔の写真などを見ることができます。屋外では、新幹線先頭車輻の実物大模型のほか、車輪やパンタグラフ、昔の信号機などが展示されています。

〈案内〉

- ・開館時間：9：30～16：30(入館は16：00まで)
- ・休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
- ・入館料：大人200円、小人100円(団体20名以上半額)、土・日・祝日は小・中学生無料
- ・所在地：新潟市新津東町2-5-6
- ・電話：0250-24-5700
- ・交通：JR信越本線新津駅からバスで5分 磐越自動車道新津インターから車で2分



〈案内略図〉



収蔵資料紹介 ④

■水沢新田 富所家・佐藤家文書

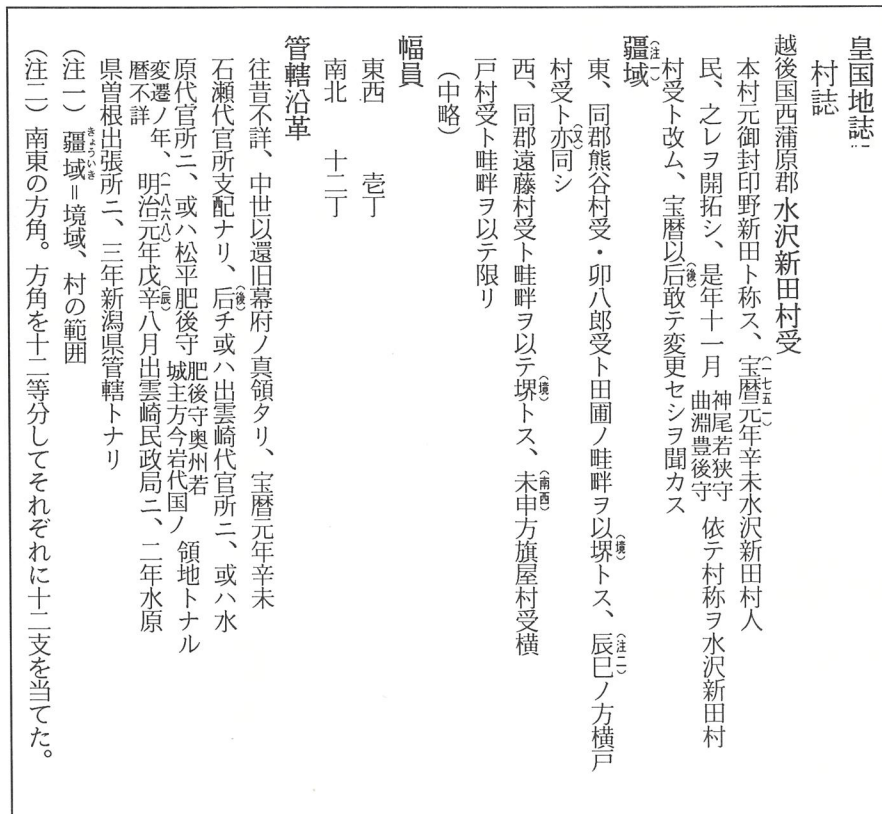
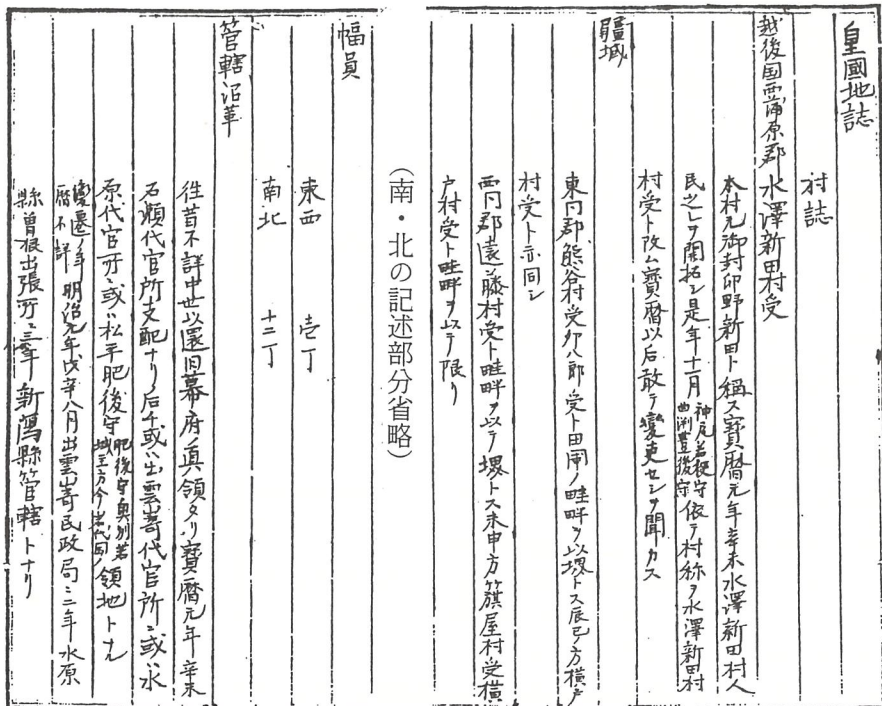
水沢新田（潟東地区、現横戸の一部）の庄屋・戸長を務めた富所家及び組頭・戸長を務めた佐藤家の文書です。江戸時代の用排水争い・新田開発・年貢皆済目録や、明治期以降の地租改正・学校建設・戸長役場文書・地籍図などの豊富な資料からなり、733点あります。地域の歴史を知ることができる資料群として、市指定文化財となっています。潟東歴史民俗資料館が収蔵しており、同館で一部が展示されています。歴史文化課には複製本があります。

掲載の資料は、明治18（1885）年、「水沢新田村受」の地主総代2人が新潟県令の永山盛輝に提出した「皇国地誌」の控えの1枚目です。印刷された罫紙5枚に水沢新田村受の村誌が記されています。

水沢新田村受は、村誌の冒頭に記載されているように、水沢新田が江戸時代中期に「御封印野」の一部を村請け負いで開発して出来た村です。御封印野は、鎧潟周辺に広がる遊水地でしたが、水沢新田など近辺の12か村により新田開発されました。村誌には掲載部分に続いて、県庁・郡役所からの距離、四隣（四方に接する村）との距離、近傍の宿駅、地勢、地味、飛地、税地の反別、貢租、悪水堀（排水路）、道路、古跡、物産など18項目について記されています。戸数や人口の項目がないので、無人の村であったようです。地勢の項は、「平坦低湿ノ地ニシテ往々水害ヲ蒙ル、或ハ干損ニ遭遇セリ、運搬ハ頗フル不便ヲ極ム」と記されています。水害や旱害が多いうえ、水沢新田から舟で農作業に行くのも大変なところである、という意味でしょうか。物産の項は、「米」と記されています。

皇国地誌は、政府が、明治8（1875）年、全国の府県を通じて各村に作成させた地誌（村誌）をもとに、日本の地誌（皇国地誌）を編集しようとしたものです。新潟県では、翌年に布達が出され、村ごとに村誌が作成されました。布達の調査・報告項目は、前述の外、戸数・人数・牛馬・舟車など数十項目にわたっています。

全国から提出された地誌は、編さん途中に大正12（1923）年の関東大震災で大半が焼失してしまいました。そのため、各地域に残った草稿や控えは、明治初期の村の概要を知ることができる貴重な資料となっています。この水沢新田富所家・佐藤家文書には、水沢新田と嵐潟新田（現横戸の一部）の村誌も含まれています。



■第19回国民体育大会春季大会の記録写真

新潟県では二巡目の第64回国民体育大会（「国体」）が、平成21年秋に開催されます。一巡目の第19回国体は、昭和39（1964）年6月6日から11日まで、当時の新潟市・新津市・巻町・黒埼村など県内各地で開催されました。

掲載の写真は、旧市域と黒埼地区の記録写真です。歴史文化課には、アルバム2冊、ネガアルバム2冊、カラーポジフィルム約400コマなどがあります。

写真1は、国体開催を歓迎する古町通の装飾の様子です。旧市内では、国体を迎えるため、「明るい春のムードと近代的センス」を目指し、市街地を商店街・中心繁華街・バス通り・一般住宅街などに区分し、装飾されました。

古町通では、電球を配した提灯5個を金銀だんだらの木枠に連結したものを一組とし、約6メートル間隔にアーケードにつりました。提灯の形にも工夫が施され、アーケードの柱には日章旗・国体旗と生花が付けられました。また、大きなクス玉が七夕飾りのようにしてつるされました。

写真2は、黒埼村大野の商店街を通過する「大会旗リレー」の様子です。大会旗は、昭和39年4月30日、前年度開催地の山口県庁を出発し日本海側を通り、5月14日に新潟県に入りました。黒埼村には5月31日に西川町から引き継がれました。

先導車の後に続く大会旗は、沿道の大会関係者や大勢の市民、黒埼中学校生徒や同校ブラスバンド演奏などによる地域あげでの歓迎の中、次の新潟市へとリレーされました。その後、佐渡と旧市域各地を経て、6月6日には新潟市役所から陸上競技場にリレーされて、掲揚されました。

写真3は、選手団の宿舎になった、女池の皆応寺門前の様子です。旧市域は開・閉会式と10種目、合併市域では4種目の競技が行われ、旧市域だけで大会関係者1万数百人が宿泊しました。宿泊施設が不足し、仏教会・神社協会・町内会の協力で、お寺や神社、一般家庭も宿舎になりました。

高校生の硬式野球は昭和38年に完成した鳥屋野野球場が会場でした。鳥屋野潟周辺の旅館10軒の外、女池の皆応寺、鳥屋野の西方寺も選手団の宿舎になりました。皆応寺では、地元の婦人会が割烹着を着て歓迎準備をしました。旧市域では、寺院・神社に約800人、一般家庭に3,035人が宿泊し、このような光景が各地で見られました。

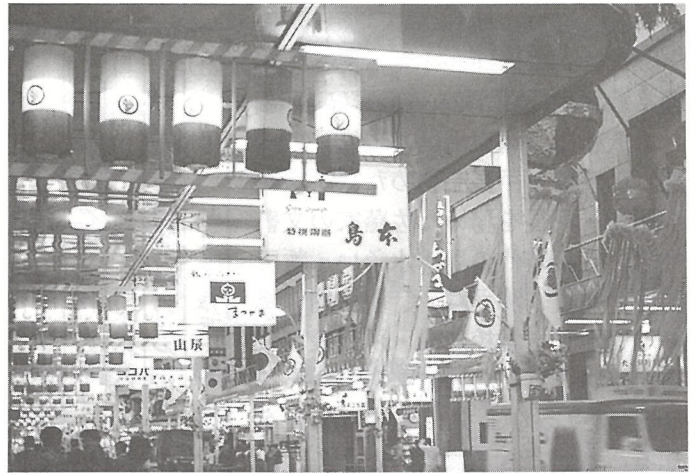


写真1 国体を迎える準備が整った古町通六番町



写真2 黒埼村大野の商店街を通過する大会旗



写真3 能代高校野球選手の宿舎になった女池・皆応寺

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら教えてください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市総務局国際文化部
歴史文化課
〒951-8550 新潟市学校町通1番町602-1
TEL 025-228-1000（内線 32584）
FAX 025-230-0412
E-MAIL rekishi@city.niigata.lg.jp